



2017年2月 第421号

# スズキ労連

2017年  
2月号

スズキ関連労働組合連合会  
静岡県浜松市南区増楽町20  
電話(053)447-3079 FAX.053-440-2838  
発行人 武藤憲司  
編集人 金子孝枝

## 第68回中央委員会開催!

『2017年総合生活改善』  
取り組み方針を決定。

スズキ労連は1月20日(金)18:00より、SUN会館大会議室にて第68回中央委員会を開催しました。スズキ労連の各加盟組合から中央委員88名(男性71名、女性17名)・傍聴者58名(男性40名、女性18名)が参加し、『2017年総合生活改善の取組方針(案)』の審議を行い、満場一致で決定しました。各組合では、今後この方針に基づいて職場討議を行い、独自の要求を組み立てていきます。



第一号議案は、第45期役員辞任の件として、平岡ボデー労働組合の委員長の辞任を提案し承認され、第二号議案は、第一号議案の役員辞任に伴い役員補充の件として、平岡ボデー労働組合の倉田泰好さんを補充することが承認されました。

### 本中央委員会の女性参加比率は、中央委員19.3% 傍聴31%でした。

各組合の女性参加者は自動車総連男女共同参画 新・第1次アクションプログラムに基づき、中央委員、傍聴とも労連の女性組合員比率の13%を努力目標としています。今回は多くのスズキ労連女性委員にも参加頂きました。

### 『2017年総合生活改善の取組み』具体的要求内容 一抜粋一

#### 1.賃金引上げ

##### ①平均賃金要求

すべての単組は、現状の賃金水準を維持するため、賃金カーブ維持分を確保する。求める経済・社会の実現、現下の産業情勢を踏まえ、格差・体系の是正と生産性向上に対する成果配分を求めるべく、3,000円以上の賃金改善分を設定する。組合員化した、直接雇用の非正規労働者の賃金についても、原則として、賃金改善分を設定する。

##### ②個別ポイント絶対水準要求

- ・技能職中堅労働者(中堅技能職)の現行水準を維持し、水準向上や格差・体系是正に向け、各組合の判断により賃金改善分を設定する。
- ・各組合は、以下の目指すべき水準を参考に自社に合った水準への引き上げを目指す。

基準Ⅰ 272,000円      基準Ⅱ 248,000円      基準Ⅲ 240,000円

##### ③企業内最低賃金協定の締結

18歳・・・158,000円以上

##### ④年齢別最低補償賃金

- ・各組合は、以下の目指すべき水準を参考に自社に合った水準への引き上げを目指す。

20歳 159,000円    25歳 178,500円    30歳 212,000円

35歳 235,000円    40歳 253,500円    45歳 262,500円

#### 2.年間一時金

##### ①月数

年間5ヶ月以上を基準とする。最低でも昨年獲得実績以上

##### ②要求基礎

要求の基礎は、賃金引上げ後の基準内賃金とする。

##### ③最低保障制度

40%以上を基本とする。

#### 3.総実労働時間短縮

- ①所定労働時間1952時間未達組合は、その達成に向けて取り組む。
- ②有給休暇取得向上に取り組む。
- ③36協定の年間特別延長時間の引き下げ
- ④改正労働基準法の中小企業猶予とされている月間60時間超の割増率引き上げに向けた取組み
- ⑤労働時間に関する取り組みの基盤整備を推進

#### 4.非正規労働者に関する取組み

- ①組合員化した非正規労働者の労働諸条件の維持・向上に向けての取組み
- ②企業内最低賃金協定の締結・水準の引き上げ
- ③非正規労働者の雇用のあり方と、労使でのコンプライアンスの点検を行う。

#### 5.政策制度課題への取組み

- 【労連／単組が行う活動】
  - ・自動車総連本部主催の政策勉強会への参画
  - ・自動車総連作成(発信)ツールを活用した組合役員・組合員への政策理解の促進
  - ・連合／地方連合等、上部団体の活動への参画

#### 【取組み日程】

- 要求書提出
  - スズキ労組 2月15日(水)
  - スズキ労組以外 2月22日(水)～24日(金)
- 統一交渉日
  - 第一回目 2月22日(水)～24日(金)
  - (第二回目以降は交渉ゾーンを設定)
- 回答指定日業種ごとの課題を整理した上で、製造部品輸送部門は3月内決着を、販売部門は4月末決着を基本に取り組む。

『2017年総合生活改善の取組み』スローガン採択  
力を合わせ切り拓こう! 豊かな未来にむけて

## 武藤会長 挨拶(要旨)



本日の中央委員会は、2017年・総合生活改善の取り組み方針を決定する場と同時に、今後の諸活動を力強く推進していく事の心合わせの場となりますので、皆様のご理解とご協力をよろしく申し上げます。

### 取り巻く環境

世界経済については、全体として緩やかな成長軌道にありますが、昨年は、国際政治の動向とその波紋が世界に拡がり、不安定な為替相場を含め、不確実性の高まりを象徴する1年となりました。皆さんご承知の通り、イギリスのEU離脱と米国大統領選挙がこの二つが大きな要素だったと思います。そして、本日、米国の新大統領トランプ氏の就任式が執り行われます。大型減税や大胆な規制緩和など掲げる一方で、TPP離脱表明など保護主義的な通商政策、厳格な移民政策など、新政権が掲げる国益最優先の言動に懸念と期待が交錯してきました。進歩の礎となる開かれた経済体制確立に向けた適切なリーダーシップの発揮を期待しつつ、先ずは、新政権の打ち出す様々な政策を見極める必要があります。また、トランプ次期大統領が、アメリカの雇用がメキシコに奪われるとして、日本の自動車メーカーを批判したことは記憶に新しいかと思えます。しかしながら、よくよく調べてみると、現在、メキシコで生産され、アメリカに輸入される年間約200万台のうち、約6割は、米国自動車メーカー製であり、その台数は日系メーカーの2倍に上っています。伝えられるような高い関税が、仮に、課された場合の影響を考えると、意図は別のところにあるのかもしれない。自由貿易体制が強化され、モノやサービスが行き交うグローバル時代には、特定の国や産業を念頭におく閉鎖的な態度は、該当国や当該地域、さらには、自動車ユーザーのいずれにも利益をもたらしません。そういった意味では、トランプ次期大統領が、SNSを通じた様々な発信をし、中には、個々の企業の事業活動に言及する現状は、その影響力を踏まえた政治手法としても、健全な経済活動促進の観点からも憂慮せざるを得ません。そして、我々は、アメリカ大統領選挙を通じ、米社会の深刻な分断構造と社会の劣化がもたらす問題の根深さを痛感しました。また、今回のアメリカ国民の投票行動にもそうした背景が影響しているとの分析にも数多く接してきました。2017年総合生活改善に取り組む私たちは、このことを忘れず、所得の二極化と固定化が進む日本社会の実態と照らし合わせながら、労働組合が果たすべき役割を見据えなくてはなりません。

日本経済について、本年度の予算編成では、1兆7千億円もの赤字国債の追加発行を余儀なくされました。これは、円安、株高による税収増を基とする予算編成の困難さはもとより、日本の財政制約の現実と金融、財政政策に頼る経済に警鐘を鳴らし、自律的成長の必要性を端的に表しています。そして、多くの国民が将来世代への借金の付け回しに限界を感じる一方で、昨年参議院選挙では、18歳、19歳の投票率が、30歳代の投票率を上回り、次世代を担うその若者たちが望む政策の上位に社会保障の抜本改革と消費税率の引き上げが挙げられたことを、全国民が真摯に受け止めなければなりません。

### 春の取り組みに向けて

このような状況下で、我々は2017年 総合生活改善の取

り組みを進めることとなります。我々は、2014・15・16年の総合生活改善の取り組みにおいて、「底上げ」「格差是正」を着実に前進させ、賃金引上げの流れを波及する一定の役割を果たすことが出来たと考えています。一方で、社会保障制度改革の遅れと将来不安、産業を支える中小労組の継続的な労働条件改善、不安定雇用及び処遇差の拡大、労働力人口の減少と生産性向上につながる健全な働き方など、先送りの許されない日本の構造課題も明らかです。本取り組みでは、こうした認識に立ち、この間唱えてきた、デフレ脱却、経済好循環に代えて「働く者の将来不安の払拭と日本経済の自律的成長」を新たな取り組み課題として進めて参ります。上部団体である自動車総連において、本年の賃金引上げ方針の策定で重視した点は、一つに、緒に就いた底上げ・格差是正の流れを止めないこと、二つに、中小労組・非正規労働者の処遇改善を加速させ自動車産業の総合力を底上げしていくこと、三つ目に、それらを通じ、すそ野の広い自動車産業の社会的役割をなお一層果たすことに集約されます。その為には、「継続」、すなわち相応の痛みを伴っても進めるべき社会保障制度改革の実現には、日本経済をプラスサイドに置き続けるエネルギーが必要です。また同時に、真の構造転換、すなわち、企業規模や業種、正規・非正規を問わず、産業を支えるすべての仲間が自らの賃金課題を継続的に改善し、底上げを可能とする新しい総合生活改善へと「転換」していく推進力を生み出す必要があると考え、今次取り組み方針を策定してきました。我々スズキ労連としても、この自動車総連の方針に賛同し、本取り組みを推進して参りたいと思えます。今期、明確な物価上昇はございませんが、今、日本では「働く者の将来不安の払拭と日本経済の自律的成長」が強く求められています。「全体の底上げ・格差是正の定着と前進」を果たすべく、全員が一丸となって取り組んで参りたいと思えます。

### 働き方の改善

現在、長時間労働が社会問題化しています。安全な職場、健康的、且つ公正な働き方は、全てに優先されなくてはなりません。長時間労働が美徳化される時代は完全に終わりを告げています。しかし、そうならない職場の実態が社会の耳目を集める事態にあります。とりわけ、働き方改革実現会議において、昨年末に政府より示された、同一労働同一賃金のガイドライン案は、今後の法制化を見据えた位置づけにあり、連合は、より分かりやすく、現場の実情を踏まえたものとなるよう、労働政策審議会での十分な論議の必要性を主張しています。スズキ労連としても、職場実態に則した役割や処遇の見直しが重要であり、ガイドライン案への合致が目的ではないこと、また、合致さえすれば処遇差は然るべきとする不安定雇用の固定化を懸念することから、連合の考え方を支持して参ります。雇用形態による処遇差の改善を図るべく、2017年総合生活改善の取り組みで掲げる、直接雇用の非正規労働者の賃金改善と企業内最低賃金協定の促進、正社員登用制度や組織化の推進の取り組みを着実に前進させたいと思えます。

### 付加価値の最適循環運動

自動車総連の推進する「付加価値の最適循環運動」ですが、スズキ労連でも、各部会における論議を経て、現在、具体的な取り組みテーマの頭出しと絞り込み作業を進めています。本年は運動を一步進め、労連・各単組レベルでも、具体的なテーマに着手・推進し、裾野の広い自動車産業全体を盛り上げ、未来に繋げるためにも「現場力の底上げ」に向けた運動の前進と定着を図って参ります。

## すべての議件を可決・承認頂きました。

## 【議件】(提案者)

- ①第45期役員辞任の件(山本副会長) 挙手にて可決 満場一致  
平岡ボデー労働組合の委員長辞任を提案し承認されました。
- ②第45期役員補充の件(山本副会長) 挙手にて可決 満場一致  
平岡ボデー労働組合の倉田泰好さんを補充することが承認されました。
- ③2017年総合生活改善の取組み方針(案)の件  
(渡部事務局長) 挙手にて可決 満場一致



司会：中村中執



山本副会長



渡部事務局長

## 【報告承認事項】(報告者)

- ①45期中間活動経過報告(渡部事務局長) 拍手にて承認
- ②45期中間会計決算報告(小松副事務局長) 拍手にて承認
- ③45期中間会計監査報告(山本会計監査人) 拍手にて承認



小松副事務局長



山本会計監査人

## 【顧問挨拶】

スズキ労連特別顧問 古川正明 静岡県労働金庫 理事長  
スズキ労連政治顧問 田口 章 静岡県議会議員

古川特別顧問  
静岡県労働金庫理事長田口章  
静岡県議会議員

## 【各委員の皆さん】(☆印は委員長)

議長 長：柏熊 隆浩(スズキ大須賀支部)・天野 祐介(スズキファイナンス)  
資格審査委員：☆大林 英之(スズキ労連中執)・仲村 明洋(スズキ磐田支部)  
笠原 賞憲(スズキ販売)・鈴木 邦彦(スズキ部品製造浜松支部)  
議事運営委員：☆長野 壮一(スズキ労連中執)・山口 豊(スズキ輸送梱包)  
工藤 健一(小楠金属・熱処理)・二田 洋(スズキ部品秋田)  
書記：和田 貢一(平岡ボデー)・山田 知美(スズキ労連)  
司会：中村 成克(スズキ労連中執)

議長団 左) 柏熊中央委員  
右) 天野中央委員

## 【質疑・意見要望】

〈中間活動経過報告について〉

- Q1. この4ヶ月様々な教育活動が実施されているがヤングリーダーの活動が無い。今後計画しているのがあれば教えて欲しい。(スズキ労組 神谷中央委員)
- A1. 今期の4月もしくは5月に開催を計画しています。2月ないし3月にはスズキ労連の中央執行委員会にてご提案が出来るかと思えます。(スズキ労連 渡部事務局長)
- Q2. 個人型確定拠出年金について、我々会社員にとっても有意義な制度が国の方で設定され、この1月から受付が開始されている。今後労連として教育の機会を設定するのかどうか考えを教えて欲しい。(スズキ労組 池島中央委員)
- A2. 今時点では検討していませんが、加盟組合からの要望や中央執行委員会の意見を踏まえ、教育の機会を設定するという事になれば中央執行委員会にかけて提案をしていきたいと思えます。貴重なご意見ありがとうございます。(スズキ労連 渡部事務局長)
- Q3. 文体部の活動について、労連賞の設定以外に全体的な活動や、地域別の活動など、文体部としてこの後継続していく活動があれば教えて欲しい。(スズキ労組 新田中央委員)
- A3. 1月26日に第2回文体担当者会議がございます。そこで例年行っている写真コンテストや昨年からは始めたボウリング大会などの議論させていただきます。地域全体で活動をするというのは静岡中心に集まっていたところから販売労組が加盟し、全国組織となり、地域ごとの活動をどうするのかという点についてはまだ整理が出来てないのでこれからの検討課題かと思えます。これからまた労連賞以外の提案をしていきたいと思えますので積極的な活動をお願いします。(スズキ労連 渡部事務局長)



神谷中央委員



池島中央委員



新田中央委員

# スズキ労連 賃金セミナーを開催



2016年12月17日(土)に開催したこの賃金セミナーは、加盟組合の執行部を中心に54名が参加し、自社の賃金における課題を把握し、春の取り組みにおいて、賃金改善要求のための基礎的理解を深め、執行部全体の資質向上を図ることを目的に開催致しました。



講師：公益財団法人 日本生産性本部  
雇用システム研究センター  
センター副所長 村上 和成氏

研修内容

- ①賃金理論の3領域
- ②賃金の特質(本質とは何か)
- ③賃金の定義(労働/労働力の違い)(対価とは)
- ④個別賃金と個人別賃金を理解する。
- ⑤所定内賃金と所定外賃金
- ⑥基本給と手当の違い
- ⑦手当の種類と特徴

受講者の声

- ・春の取り組みに向けて大変良い勉強になった。
- ・要求に対し、思いを新たにした。
- ・理論武装に役立つ内容だった。
- ・交渉のポイントがわかった。
- ・データ分析の必要性を感じた。
- ・賃金の仕組みが理解できた。賃金に関するセミナーは繰り返し開催してほしい

# 組合役職別研修(マスターコース)を開催

2017年1月21日(土)、加盟組合の三役をはじめ、各組合のリーダーを対象に「役職別研修会(マスターコース)」を開催いたしました。講義ではこれからの労働組合の経営対策活動という内容で、経済的報酬だけでなく、働きがい、生きがいなど心の豊かさを高めることが今後は必要になってくるとお話がありました。他組合の文体レク活動や、年代別ミーティング開催など、事例紹介を交えた説明は、皆さん大変興味をもって聞いていました。昨年10月より参加対象者を4つに分けて開催して参りましたスズキ労連の「組合役職別研修会」もこのマスターコースの開催で今期の研修は終了しました。それぞれの研修で得た学びを職場で行動につなげ、今後も組合員の代表としてよい会社づくりのために活動していきます。



講師：j.union(株) 代表取締役会長 西尾 力氏

受講者の声

- ～組合役員としてこれからどんな取り組みをしていこうと思いましたが～
- ・文体レク等の活動を活発化し、労使のコミュニケーション強化を図る。
  - ・年代別のミーティングを行っていく。
  - ・勝利の方程式を実践して、自ら汗をかき同じ思いの仲間を増やしていく。
  - ・組合員の意見を吸い上げ会社への橋渡しの役割をしたい。
  - ・個別の労使関係で発生する問題を、会社と組合員がwin winになるよう取り組んでいく。

グループ討議のグランドルール

OKワードを多く使う  
“なるほど!” “いいね!!”  
NGワードを使わない  
“でも、しかし” “難しい、出来ない”



どんなことでもOK!  
お気軽にご相談下さい。

スズキ労連  
**労働相談  
窓口**

仕事、職場、労働条件、コンプライアンス、人間関係、私生活…  
悩みはいろいろあるけれど、職場ではちょっと相談しにくいなあ。



こんな時にはお電話を!

**0120-500-073**  
\*月～金 9:00～18:00  
**相談無料・秘密厳守**

**【スズキ労連】 機関誌に対するご意見・ご要望がございましたら編集部までお気軽にお寄せ下さい。**

編集部 〒432-8062 浜松市南区増楽町20  
TEL.053-447-3079 FAX.053-440-2838  
e-mail : [kaneko@suzuki-union.or.jp](mailto:kaneko@suzuki-union.or.jp)

◇スズキ労連ホームページ◇  
<http://saw.gogo.tc/>

\*スズキ労連の福利厚生・スズキ労連機関紙  
共通パスワード… saw2007

## 【編集後記】

インフルエンザが流行しているようで、みなさん手洗い・うがいで下さいね。私もようやく風邪が治ってきたところ。風邪引き中は温かい飲み物がいい。年末、酒蔵で仕入れた酒粕を使って甘酒を作って飲み、身も心も温まりリラックス。酒粕はご存じの通り日本酒などのもろみを压榨して残る「副産物」少し調べると、副産物の中には、もともと廃棄物だったものもある中で、その用途が開発され「価値」が生まれると、廃棄物は「副産物」と名を変えるらしい。にがり・おから・米ぬか等々いずれも廃棄物に「価値」が生まれ副産物となっているものである。話は変わるが、自動車総連が自動車産業全体の底上げをめざして取り組んでいる「付加価値のWIN-WIN最適循環運動」身近なところで「価値」を生み取り組みがないものか考えている最中です。かねこん